

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点						
方針と重点 ・地域・高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び ②地域社会への発信 ③生きる力を働かせる ④一人ひとりの居場所をつくる	人間性豊かで活力ある国中生	未来を生き抜くたくましさ	確かな学力を育成する学校	① ① ①	① 「生徒が自ら動き、自ら学ぶ授業」の創造 ① 学びを定着させる家庭学習の習慣と質の向上	1)仲間との協働、教師との対話、教科書等を手掛かりに考える授業を通して「自分の考えが深まった」と答える生徒の割合を80%にする。	A	【成果の要因】 ・興味関心をもたせる導入の工夫、協働的な学びの場(話し合い活動等)の設定、ICT活用を中心とした授業改善を継続的にやってきたこと。 ・宿題には取り組んでいるが、こなすだけの学習になっていて、理解を深めるために繰り返したり、応用問題に取り組んだりするところまでには至っていない。 (改善点) ・授業では以下の4つに取り組む。 ①ワクワク感のある課題解決的な学習 ②討論とプレゼンの場の設定 ③学びの実感がもてる振り返りの場の設定 ④基礎・基本の定着 ・家庭学習では以下の2つに取り組む。 ①各教科から、適度な量の宿題の提示。 ②生徒自身で1週間の宿題の取り組み計画を立て取り組む。(自己調整力の育成)						
							2)ICT機器活用や資料収集・提示方法、説明の仕方等の指導を通して、「工夫して聞き手に分かりやすく発表できた」と答える生徒の割合を75%にする。	A							
							1)家庭での学習方法を具体的に個別指導し、保護者と連携した見届けを行い、「自ら進んで家庭学習に挑戦している」と答える生徒の割合を80%にする。	B							
							自己肯定感と表出能力を高める	② ④ ② ④		② ④	1)「先生に話しやすくなった」「話しやすい先生が増えた」と感じる生徒の割合を80%にする。	A	【成果の要因】 ・学年担任制の実施により、一人の生徒に複数の教員が関わることができ、その結果生徒の変化をいち早く察知、その後の対応を素早く協議し、全職員による一貫性を持たせた指導を実現。 (改善点) ・キャリア教育(なりたい自分を軸とした積極的生徒指導)の推進を図り、以下の4つに取り組む。 ①基礎的・汎用的能力に基づいた「なりたい自分」設定 ②なりたい自分にかかわる集会等での語りの場の設定(主張) ③「事実」で語るよさ見つけの取り組み(尊重) ④仲間、地域社会との意図的な関わりの場を設定。そこから新たな「見方・考え方」を拓く学びの推進。(創造)		
											2)「様々な先生が”なりたい自分”への取り組みを、認め支えてくれている」と感じる生徒の割合を80%にする。	A			
											1)学級・学年の課題解決に向けて話し合う活動の積み上げを通して、「自分たちの学級・学年は自分たちで創り上げようと思うようになった」と感じる生徒の割合を80%にする。	A			
											2)生徒会等でのコミュニケーション活動の工夫と認め合い活動の活性化を通して「学校生活向上のための考えを学級・学年や全校等に表出できた」と感じる生徒の割合を80%にする。	B			
								① ③ ② ③ ③		① ② ③	① キャリア教育の積極的な推進	1)岐阜県、高山市出身で活躍する人の勤労観についての講演から「将来の職業生活との関連の中で今の学習の必要性や大切さが理解できた」と答える生徒の割合を80%にする。		A	【成果の要因】 ・市や町の歴史、産業、働く人々の様子等について理解を深めるための、地域人材や地域素材を生かした教材開発ができたこと。 (改善点) ・地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」の育成のために、以下について取り組む。 ①地域と協働した総合的な学習の時間を編成する。＝「Future Plan」 ②郷土愛を育み持続可能な未来への意識や実践力を高める。(郷土の魅力、人々の願い、地域の未来について発見、思考、発信する力を育む)
											② 地元高山市と国府町の伝統文化やよさを、他地域と関連付けて学ぶ場の設定	1)史跡建造物訪問、伝統工芸製作等の体験を通して「国府に残る伝統文化や継承する人々の営みが何か言える」と答える生徒を90%にする。		A	
											③ 地域と協働する活動の実施	1)まちづくり協議会とのコラボによるボランティア活動やタウン誌作り等を通して「町の誇りや将来なりたい自分の展望が言える」生徒の割合を90%以上にする。		B	

学校運営協議会における主な評価内容	・授業スタイルがこの1年でだいぶ変わり、昨年度以上に今年度は自分の考えを主張できる生徒が増えたと感じた。「未来を生き抜くたくましさ」を主張、尊重、創造の視点で捉え評価していることが、生徒にとって具体的な評価となり、自信や誇りにつながっている。次年度も継続してほしい。 ・郷土愛を育むことは、生徒のたくましさや未来への意識、よりよい社会づくりへの実践力を高めることにつながる。職場体験学習や授業の講師等、運営協議会やまちづくり協議会、保護者や地域に積極的に依頼して、地域力を生かしてほしい。
-------------------	---